

## 2009年9月

昼間の日差しはまだまだ真夏のような強さをもっていますが  
朝夕の風には少しずつ、秋の訪れを感じるようになってきました。  
みなさん、いかがお過ごしでしょうか？

朝夕の風だけではなく、香港では秋の大きな行事にむけて  
町中が賑わっています。

春の旧正月に続く、香港の人にとって重要な伝統行事、  
それは中秋節です。  
毎年、旧暦の8月15日、今年は西暦の10月3日に祝われます。

日本でも中秋の名月とよく言われますが、  
こちらでも、中秋節の満月は特に美しく丸いとされ、  
家族、親族間の団欒のシンボルでもあり、  
団欒節とも呼ばれます。  
その名前のお通り、この日には家族はもちろん、  
親戚一同が会して食事をし、団欒してお祝いする日でもあります。

日本でのお月見のイメージといえば、月とすすきと  
白い月見団子ですが、香港での中秋節といえば、  
月餅とランタンでしょうか。

まずな何はなくとも月餅。  
日本ではお月見団子を食べないまま、中秋の名月を  
過ごしてしまうこともありそうですが、香港では  
この月餅なくして中秋節はお祝いはできないというほど  
香港の人にとっては大切なお祝いのお菓子のようです。

この月餅、最近では中身がカスタードや、チョコレート、  
ゴマ味にグリーンティ味と色々なものがでまわっているようですが  
スタンダードなものと言えば、  
満月をイメージした蛋黄と呼ばれる塩漬けのアヒルの卵の黄身が中に入った  
蓮の実のあんを焼いた皮で包んだ形式のものになります。

香港に来た当初、月餅という言葉は聞いたことはあっても、  
実際食べたことのなかった私は、勝手に日本の上用のお饅頭のようなものを  
想像していて、食べたらなかから、しょっぱい卵の黄身がでてきて  
とても驚いたことを覚えています。

また月餅は単に家族間のお祝いだけではなく  
お世話になった先への季節の贈答品、日本でいえばお中元のような  
意味合いもあり、中秋節を控えた香港では、熱い月餅商戦がくりひろげられて  
います。

そしてそんな街をこの時期、色華やかに飾っているのがランタンです。  
赤や金色や桃色といった色鮮やかな和紙で作られた金魚やうさぎの  
ランタンが店先に並ぶ様子は、何回も見ている光景にかかわらず  
つい足をとめて見入ってしまうほど可愛らしく、華やかです。  
最近ではプラスチックで作られたキャラクターものもたくさん出回っており  
大人も子供もめいめい好きなものをわいわいと楽しそうに買っているさまは  
とても微笑ましく感じます。

一家団欒の食事の後はこのランタンをもって、ヴィクトリアピークや  
香港島南部の浜辺など、お月さまがよく見える場所や  
色とりどりの巨大なランタンが展示される有名なヴィクトリアパークの  
ランタンフェスティバルに家族そろってでかけるようです。

実は、私は香港に移ってきました時に、街中で空を見上げても  
お月さまが見えないことが多いというのに、たいへん驚きました。  
スカイスクレイパーという言葉がありますが、数十階建ての超高層ビルが  
立ち並ぶ街中では見上げる空は本当に小さくて、出ているはずの  
お月さまを探してキョロキョロと辺りを見回すことが幾度もありました。  
その時は、香港の人はこんなに高いビルに囲まれて、お月さまが  
見えなくても平気なのかしらんと、アジアといっても  
所変わると違うのかしらんと、少し寂しい気持ちがしたのですが  
この中秋節という月を愛でる行事をこんなに大切にしていると  
その後知り、ほっとしたような嬉しいような気持ちになったことを  
覚えています。

去年の中秋節は空も澄み渡り、くっきりとしたお月さまを

見上げたのを覚えています。  
今年も良いお天気になりますようにと祈りつつ。

咲乃月音